

<特集「情報構造と名詞述語文」>

ポーランド語における情報構造と名詞述語文¹
Information structure and nominal predicate sentences in Polish

森田 耕司
Koji Morita

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は、特集「情報構造と名詞述語文」(『語学研究所論集』第21号, 2016, 東京外国語大学)に寄与するものである。本稿の目的は、20個のアンケート項目に対するポーランド語のデータを提供することである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘Information structure and nominal predicate sentences’ (Journal of the Institute of Language Research 21, 2016, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer Polish data for the question of 20 phrases.

キーワード: ポーランド語, 情報構造, 名詞述語文

Keywords: Polish, information structure, nominal predicate sentences

『語学研究所論集』第21号の特集「情報構造と名詞述語文」に関する風間(2016)のまえがきに記されているアンケート項目及びその意図や説明に基づき、ポーランド語のデータを提示する。アンケート項目に回答しつつ、必要に応じて、解説も加える。

1. えっ, A (固有名詞) が来たの? / いや, A じゃなくて B が来たんだ。【対比焦点 (主語)】 (例えば, 昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で)

例文1及び2のように、ポーランド語においては、WH主語焦点の応答文では語順をVSに転倒している。

Co, przyszedł A?
what come-3SG.PF.PST

Nie, nie A, przyszedł B.
NEG NEG come-3SG.PF.PST



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed/ja>

¹ ポーランド語のデータ作成に際してご協力いただいた本学特任講師カロリナ・レシニェフスカ先生に心よりお礼を申し上げます。

2. 誰が来たの? / A が来たよ. 【WH 焦点 (主語)・WH 応答焦点 (主語)】

ポーランド語では、反復する動詞は省略可能なため、応答文は主格の主語のみでも許容される。

Kto przyszedł?
who come-3SG.PF.PST

Przyszedł A.
come-3SG.PF.PST

3. A のほうが大きいんじゃないの? / いや, A じゃなくて, B のほうが大きいんだよ. 【Yes No 疑問・形容詞述語応答焦点】

ポーランド語では、応答文は形容詞述語の非出現も許容される。ポーランド語で比較級を含む文章を作る場合、比較の対象を示す必要がある。つまり、「B より A のほうが大きいんじゃないの?」が適切である。

Czy A jest większe (od B)?
Q be-3SG.IMPF.PRS bigger-ADJ.NOM (than B)

Nie A, B jest większe.
NEG be-3SG.IMPF.PRS bigger-ADJ.NOM

4. (電話で) どうしたの? / うん, 今, お客さんが来たんだ. 【文焦点 (自動詞文)】

例文 4 の応答文は、存在 (事実確認) 文のため VS 語順となり、主語は後置される。

Co się stało?
what REF happen-3SG.PF.PST

Właśnie przyszedł gość.
just come-3SG.PF.PST guest-SG.NOM

5. あの子供が A を叩いたんだって! / いや, A じゃなくて, B を叩いたんだよ. 【対比焦点 (目的語)】

ポーランド語では、応答文は対格の目的語のみでも許容される。

To dziecko pobiło A!?
that-SG.NOM child-SG.NOM hit-3SG.PF.PST

Nie, nie A, pobiło B.
NEG NEG hit-3SG.PF.PST

6. 赤い袋と青い袋があるけど、どっちを買うの? / (私は) 青い袋を買うよ。【対比焦点 (目的語, 特に「どっち」という対比的な疑問語の場合)】

ポーランド語では、応答文は対格の目的語のみでも問題はなく、日本語の「袋」に相当する名詞も重複のため省略が可能である。

Są	czerwone	i	niebieskie	torby	–	które	kupujesz?
be-3PL.IMPF.PRS	red-PL.ADJ.NOM	and	blue-PL.ADJ.NOM	bag-PL.NOM		which-REL.ACC	buy-2SG.IMPF.PRS

Kupię	niebieską	torbę.
buy-1SG.PF.PRS	blue-SG.ADJ.ACC	bag-SG.ACC

7. Aはどこですか? / Aは朝からどっかへでかけたよ。【述語焦点】(例えば、朝少し遅く起きて来たAの父親が、姿の见えないAについて母親に尋ねている場面で)

Gdzie	jest	A?
where	be-3SG.IMPF.PRS	

A	wyszedł	gdzieś	rano.
	go out-3SG.PF.PST	somewhere	morning

8. (あの子供は) 誰を叩いたの? / (あの子供は) 自分の弟を叩いたんだ。【WH焦点 (目的語)・WH応答焦点 (目的語)】

ポーランド語では、応答文は対格の目的語のみでも許容される。

Kogo	pobiło?
who-ACC	hit-3SG.PF.PST

Pobiło	własnego	brata.
hit-3SG.PF.PST	own-ADJ.ACC	brother-SG.ACC

9. (電話で) どうしたの? / うん, Aが(自分の)弟を叩いたんだ。【文焦点 (他動詞文)】(例えば、電話の向こうで子供の泣き声がかきたのを聞いての発話)

Co	się	stało?
what	REF	happen-3SG.PF.PST

A	pobił	brata.
	hit-3SG.PF.PST	brother-SG.ACC

10. あのケーキ, どうした? / (ああ, あれは) A が食べちゃったよ. 【目的語主題化, 主題 (目的語) の継続性, いわゆる pro-drop 言語の可能性】

例文 10 においては, 応答文に主題目的語が代名詞で出現している. 出現が必須であるとは言い難いが, 出現するのが自然で, 省略しにくいと思われる.

Co	się	stało	z	tym	ciastem?
what	REF	happen-3SG.PF.PST	with-PREP	that-SG.INS	cake-SG.INS

Zjadł	je	A.
eat-3SG.PF.PST	that-SG.ACC	

11. 私が昨日お店から買ってきたのはこの本だ. 【分裂文】

ポーランド語では, 関係代名詞を用いた分裂文で表現されている.

Oto	książka,	którą	wczoraj	kupiłem	w	sklepie.
here	book-SG.NOM	which-REL.ACC	yesterday	buy-1SG.PF.PST	in-PREP	shop-SG.LOC

12. あの人は先生だ. この学校でもう 3 年働いている. 【措定文, 主題 (名詞述語文の主語) の継続性, いわゆる pro-drop 言語の可能性】

ポーランド語では, 主題主語が継続可能であり, 動詞が一致していることが条件で, 2 文目では主語を省略することが可能である.

Ta	osoba	jest	nauczycielem.
that-SG.NOM	person-SG.NOM	be-3SG.IMP.F.PRS	teacher-SG.INS

W	tej	szkole	pracuje	już	3	lata.
in-PREP	this-SG.LOC	school-SG.LOC	work-3SG.IMP.F.PRS	already		year-PL.NOM

13. 彼のお父さんは, あの人だ. 【倒置同定文】

ポーランド語では, 「A は B だ」というとき, to をコピュラとして, A to B という形式を用いることができる. ただし, A も B もともに名詞でなければならない.

Jego	ojciec	to	ta	osoba.
his	father-SG.NOM	COP	that-SG.NOM	person-SG.NOM

14. あの人が彼のお父さんだ. 【同定文】

主語の名詞または代名詞がコピュラである być によって述語の名詞とつながれている場合には, 述語の名詞

は原則的に造格（具格）になる。これを「述語の造格」と呼ぶ。

Ta	osoba	jest	jego	ojcem.
that-SG.NOM	person-SG.NOM	be-3SG.IMP.F.PRS	his	father-SG.INS

15. あさってっていうのはね、明日の次の日のことだよ。【定義文】

ポーランド語では、定義文には日本語の「意味する」に相当する動詞を用いる。

Pojutrze	oznacza	dzień	po	jutrze.
the day after tomorrow-SG.NOM	mean-3SG.IMP.F.PRS	day-SG.ACC	after-PREP	tomorrow-SG.LOC

16. (何人かで入った喫茶店で注文を聞かれて) 私はコーヒーだ。【ウナギ文】

ポーランド語では、ウナギ文は成立せず、最も自然な表現としては「私はコーヒーを (お願いします).」となる。コーヒーは直接目的語として対格で示される。

Ja	proszę	kawę.
I-SG.NOM	ask-1SG.IMP.F.PRS	coffee-SG.ACC

17. [(注文した数人分のお茶が運ばれてきて) どなたがコーヒーですか?との問いに] コーヒーは私だ。【逆行ウナギ文】

ポーランド語では、逆行ウナギ文が成立せず、その代わりに for me に相当する前置詞句を用いて表現する。

Kawa	to	dla	mnie.
coffee-SG.NOM	COP	for-PREP	I-SG.GEN

18. その新しくて厚い本は (値段が) 高い。【形容詞述語文 修飾・並列・述語】

ポーランド語は、2つの形容詞が1つの同じ名詞を修飾する際、and にあたる接続詞 i を用いて修飾句を形成し、これ全体で連体修飾を行う、いわゆる一括修飾型に属する。

Ta	nowa	i	gruba	książka	jest	droga.
that-SG.NOM	new-SG.NOM	and	thick-SG.NOM	book-SG.NOM	be-3SG.IMP.F.PRS	expensive-SG.NOM

19. (砂糖入れを開けて) あっ、砂糖が無くなっているよ! 【意外性 (mirativity)】

例文 19 では、驚きを表す感動詞とともに砂糖がない状態を表現しているので現在形になっているが、砂糖が「終わって (尽きて) しまった」「消えてしまった」のように完了体動詞の過去形を使って「結果の残存」により表現する方法や「(砂糖が無いことが) 明らかになった」と表現することにより意外性を示すことも可能ではないかと思われる。

Och,	nie	ma	cukru!
oh,	NEG	have-3SG.IMPF.PRS	suger-SG.GEN

20. 午後, 誰かに会うはずだったなあ. 誰だったっけ? あっ, そうだ, ~君だったな. 【思い出し】

ポーランド語では, 「誰かに会うはずだったなあ。」の文において, 先の証拠性を表現するために過去形が使用されている. 以降の文では重複を避けるため, 述語は省略されている.

Po	południu	miałem	się	z	kimś	spotkać.
after	noon-SG.LOC	have-1SG.IMPF.PST	REF	with-PREP	who-INS	meet-INF

Z	kim?
with-PREP	who-INS

Och,	tak,	z	panem	X.
oh	yes	with-PREP	Mr.-INS	

略語

ACC=対格, ADJ=形容詞, COP=コピュラ, GEN=生格, IMPF=不完了体, INF=不定形, INS=造格, LOC=前置格, NEG=否定, NOM=主格, PREP=前置詞, PST=過去, PL=複数, PF=完了体, PRS=現在, REL=関係詞, Q=疑問小詞, REF=再帰代名詞, SG=単数, 1=1 人称, 2=2 人称, 3=3 人称

参考文献

風間伸次郎 (2016) 「特集 情報構造と名詞述語文 まえがき」東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第21号, pp. 17-44.

執筆者連絡先: morita@tufs.ac.jp

原稿受理: 2022年12月10日